

## クラフト（木工芸）との出会い

「仕事の関係で栃木にいた時にウッドピックチャーに出会い、自分でも作ってみたいと思い、2年間、毎週末、工房に通って木工を習いました。」

村岡さんの作品を見せてもらおうと、木目の優しさ、色の鮮やかさに心が和む。

制作の工程は、まず下絵を描いて、木を切り、やすりをかけ磨く。角をとって丸く仕上げ、着色して完成だ。

「とても手のかかる工程ですが、木は素直。こちらが手をかけた分だけ応えてくれます。」

木の持つ質感、木目、色をどうやって活かせるか、色んな塗料や絵の具を試します。試行錯誤しないと良いものは生まれませんよ」と村岡さんは語る。

## 木に込めた思い

村岡さんの様々な作品の中で、とりわけ個性的なのが時計だ。丸型、半円、てんとう虫型などのユニークな形に、鳥の顔などの秒針が時を刻む。

「クラフトを特別なものでなく日常の中で使ってもらえることが嬉しいです。以前、私の時計を購入してくださった方が『子どもの部屋に飾っているんですが、鳥の時間って言うんですよ』と話してくださったのがとても嬉しかったです」と笑顔の村岡さん。

## 木と共に

小城に住むお母さんのことと、もつと木工に取り組みたいという思いから今年、小城に戻り、工房「木の絵」で制作に励み、個展にも力を注いでいる。

「最初は佐賀の人に、クラフトが受け入れてもらえるか不安だったんですが多くの方に来ていただきました。小城の人は本当に温かいです」と村岡さん。今年、佐賀美術協会展に初挑戦し、見事入選。

昼間は学校に通いながら、1週間で作り上げた。自身の成長のために今後にも挑戦していきたい、と決意を語ってくださいました。

クラフトの魅力を尋ねると、「木に触っていると、とても気持ちが悪く落ち着きます。お一人でも私の作品を見て、癒されたり、元気なってもらえたら嬉しいですね。今はとにかく、つくり続けたいと思います」と力強く語る。

村岡さんありがとうございました。

# I Love Logi

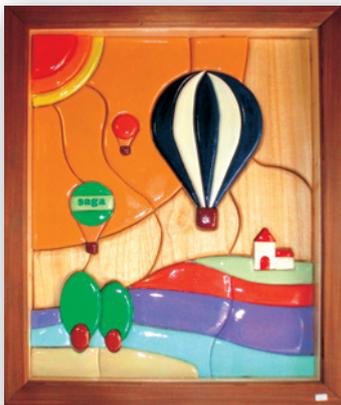
第3回  
～ アイラブおぎ～



## 村岡 義明さん

- プロフィール  
1955年生まれ、4歳の時に父の転勤で小城を離れる。1990年クラフト（木工芸）に出会い、学び始める。1995年アマチュアクラフトフェアに出品を始める。2004年転勤地の神奈川で鎌倉彫を学ぶ。2009年3月職場を早期退職し、実家の三日月町に戻り、佐賀県立産業技術学院で学ぶ傍ら制作活動に励む。54歳。

## ギャラリー



佐賀美術協会展に見事入選した「帰郷」。



かわいいオーナメントが埋め込まれた時計。



作品は自宅で公開中。